

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 実践的教育科目群の質を検証するために、教員相互の情報交換の場を設け、授業の質を確保する。	→ 「履修者数規模別の授業科目数」「少人数授業の授業形態の調査」「マルチメディア教室の稼働率」「演習・実習科目担当者会議における検討状況」	B
2. 実習科目等における学生へのガイダンスおよび事前事後指導のありかたの検討と改善を図る。	→ 「実習委員会の検討状況」「実習生に対する外部評価内容」	B
3. 教員・保育士養成課程の充実と改善のために、教員・保育士養成課程担当者会を月1回開催する。	→ 「幼稚園教員・保育士養成課程担当者会の検討状況」「小学校教員養成課程担当者会の検討状況」	B
4. 学生による授業評価を積極的かつ効果的に活用する。	→ 「学生による授業評価に基づいた授業改善の方策の作成と公表の実施率」	B
5. 授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修会を年2回実施する。	→ 「FD委員会、研修会での検討状況」	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

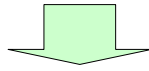
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目6.3.1	(方針) 実践的教育科目群の質を検証するために、教員相互の情報交換の場を設け、授業の質を確保する。 (現状説明) 2009年度に開講された科目のうち、50人以下のクラスでの授業が比較的多かった(全体の約86.5%)。特に実践的教育科目群の中で、1年生が対象となる「体験実習」については、少人数クラスに分けた指導を行っている。授業運営に関しては、情報交換のために科目担当者会を開き、事前・事後の指導の方向性の確認を行いながら、授業の質を高める工夫をしている。
★	小項目6.3.2	(現状説明) 実習科目については、教育目的等を記した教育学部独自の実習要項を作成、学生に配布してガイダンスを行っている。また、時間的制限のため時間割に組み込むことのできない事前・事後指導については、内容の充実を図るために
★	小項目6.3.3	(現状説明) 学部内に幼稚園教員・保育士養成課程担当者会と小学校教員養成課程担当者会を設置し、1～2ヶ月に1回のペースで、教員免許および保育士資格取得に係る授業の内容を検証し、完成年度後に向けた改善策を検討している。
★	小項目6.3.4	(現状説明) 実践的教育科目である1年生科目の「体験実習」については、学部で行う学生による授業評価のみでなく、受講学生を対象としたアンケート調査を行い、科目担当者会でその結果検討して、授業改善に活かすようにしている。
★	その他	(現状説明) 春学期と秋学期に1回ずつ(年2回)、教員相互の情報交換と研修の場を設けて、これをFDの一環として位置づけ、授業内容や方法の改善を図るようにしている。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

	小項目6.3.1	科目担当者会の開催による教員間の授業目的の共有化と授業内容の改善。
	小項目6.3.2	実習要項(冊子)の作成。土曜日を活用しての体験実習の事前・事後指導の充実。
★	小項目6.3.3	幼稚園教員・保育士養成課程担当者会・小学校教員養成課程担当者会の開催と情報交換。
	小項目6.3.4	受講学生を対象としたアンケート調査結果の授業改善への活用。
	その他	授業内容や方法に関する情報交換。



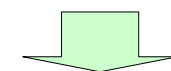
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

	小項目6.3.1	「体験実習」のみでなく、他の複数教員で担当する実践的教科目についても、月1回の科目担当者会を継続的に開催し、授業改善を図る。
	小項目6.3.2	各実習担当者会、実習委員会において、実習要項の内容の見直しを行い、課題を抽出して改善を図る。事前・事後指導の時間確保と指導内容の充実を継続的に検討する。
★	小項目6.3.3	継続的に1～2ヶ月に1回のペースで幼稚園教員・保育士養成課程担当者会・小学校教員養成課程担当者会を開催し、実践的教科目に関する課題を整理して、完成年度以降の教育課程に活かす。
	小項目6.3.4	他の実習科目についても、事後に学生へのアンケート調査を実施し、指導内容の改善を図る。
	その他	継続的に情報交換や研修の場を年2回設けて、全教育学部教員に参加を呼びかけ、教育方法および学習指導の質を高める。

◎改善すべき事項

【点検・評価(2)】改善すべき事項

	小項目6.3.1	実習科目以外の実践的教育科目の教育方法および学習指導の改善。
	小項目6.3.2	実習科目の事前・事後指導の時間確保。
★	小項目6.3.3	幼稚園教員・保育士養成課程担当者会と小学校教員養成課程担当者会での実践教育科目に関する課題と改善策の整理。
	小項目6.3.4	アンケート結果に関する学生へのフィードバック。実習校・園からの意見聴取。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

	小項目6.3.1	実習以外の実践的教科目の教育方法および学習指導の改善をはかるため、複数の教員で担当している授業科目については、担当者会で情報交換を行い、課題を検証する。
	小項目6.3.2	すべての事前・事後指導を充分に行う時間の確保がむずかしいため、実習の事前・事後指導として内容的に重なっているものを整理し、体系的に全実習の事前・事後指導を行う方法を検討する。
★	小項目6.3.3	実践教育科目に関するカリキュラム上および教育方法や学習指導上の課題を改善し、完成年度以降に活かすために検討ワーキングを立ち上げる。
	小項目6.3.4	アンケート結果を整理して、今後の改善点を学生に伝える。また、学生の実習先を対象としたアンケート調査を行い、学生を対象にしたアンケート調査結果と合わせて、教育方法および学習指導の改善を図る。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○改善すべき事項への改善方策が具体的に立てられていることは評価できます。今後の成果が期待されます。

【学内委員】

○(方針)は不要です。現状説明に含めてください。

○目標のそれぞれ、また各小項目に対して、具体的かつ適切に記述され、改善が順調に進展しています。

○教員養成系の学部である故、実習に関する記述が多く見られますが、臨床教育学科にも当てはまる内容でしょうか。

また、履修登録単位数の上限を年間50単位未満にするという全学の方針に沿ったものかの検討もお願いします。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「3-1. 学士課程の教育内容・方法(2) 教育方法 ②1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満で設定している」については、本水準を満たしていない学年があり助言対象となる場合があります。改善に向けご努力ください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.3.1「現状説明」の(方針)部分を削除し、下記のように修正。

★ (現状説明) 2009年度に開講された科目のうち、50人以下のクラスでの授業が比較的多かった(全体の約86.5%)。特に実践的教育科目群の中で、1年生が対象となる「体験実習」については、少人数クラスに分けた指導を行っている。授業運営に関しては、情報交換のために科目担当者会を開き、事前・事後の指導の方向性の確認を行いながら、授業の質を高める工夫をしている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
